

アメリカの地方行政

アメリカは 50 州から成っている。日本の総面積と同じくらいのカリフォルニア州を始め、ロード・アイランド州の様に後志支庁ぐらいの大きさの州もあり、多種多様である。州には郡 (County) があって、その中には幾つかの市町村が存在している。私はノース・カロライナ、ヴァージニア、メリーランド、そしてニュージャージーの各州に住んだが、行政構成は殆ど同じであった。小中学校は殆どが市町村の管轄であり、高校は郡の管轄もあり、市町村の管轄もある。高校が管轄でない郡政権は地方行政に占める役割には限界 (郡道、橋の整備、除雪等) があるが、裁判所の維持、多くの許可、認可なども含め、州議会に議員を選出する役目がある。各市町村では主に警察業務、教育業務、公共施設維持等の業務があり、市 (町) 議会運営の役目がある。又、諸々の税徴収の業務を遂行する。

州警察、郡警察は存在するが一般の警察業務は市町村の管轄であり、市町村行政の主要な役割を持っている。警察は一般市民と密接な関係を持ち、市議会は警察業務に対して責任を負う。つまり市町村長が警察署長を任命する。言うならば小樽警察署長への尋問は道警本部に対して行なうところをアメリカでは市町村長に対して直接あるいは議会を通して行なうので、迅速な警察官のサービスが期待される。例えば、警察官がパトロール中にミスター・ドーナツ店で油を売っている等は市民が議会に出席して直接市長や警察署長に尋問する事が出来るのである。

又町内会では市の教育長、市長、警察署長、公共事業部長らを招いて、直接市民より尋問を受けたりするのはごく当たり前のことである。私が在住していたアトランティック・シティでは町内会が 3 つあって、私はその一つに所属、役員をしていたので町内会を代表して市議会へ赴いた。又市議会は毎月一回、午後 7 時から行なわれ、真夜中に終わるが、地域に与えられている公共 TV チャンネルで実況放映される。議会は先ず市民からの尋問から開始する。町内会からも代表が出席する。内容は実に広範囲にわたり、例えば、何処何処通りの一方交通が不に落ちないとか、何処何処の道路工事が長引いているのは何故だ、とか、警察官の怠慢とか、ゴミの収集が遅いとか、などであるが、出席の部門責任者 (部長以上) が即答するか、次回の議会までに責任回答をするなど、特に市議会議員はうたた寝の暇などない。市議会議員の報酬は都市のサイズにもより異なり、又議員の任務にもよるが、ちなみにアトランティック・シティは人口約 5 万ではあるが 12 のカジノを有する市でもあるので観光客を入れると常時 12 万の人口は下らない。議員職はフルタイムではないので報酬は年額にして \$3,000 (27 万円)、勿論ボーナス等ない。市議会議長は市が供給する自動車を与えられるが、今その価値が問題化されている。

又市町村行政の主なる支出は教育機関である事から教育委員会は市行政から独立している場合が多い。したがって教育委員は公選となる。教育委員会は原則としては毎月一回の会議を招集し、主に教育行事、教育予算の承認で、これも午後 7 時に開始し、真夜中に閉じる。これも先ずは一般市民からの直接尋問から始まる。学校と家庭の協力関係、

児童生徒の風紀取り締まり、何処何処の学校の生徒の行動が悪い、校内暴力、学力検査等多種多様な質問がされる。又教育委員会は教員を含む人事の承認、教員の学術会議出席等の承認も行なう。これも公共 TV で放映される。公選で選ばれる教育委員の報酬はゼロ。交通費とか夕食費などが支払われるが、それは微々たるものである。しかし、この公職から市議会議員、郡議会議員、そして州議会議員を将来目標とする人も多い。私もこの教育委員公選に出馬した。

要約すると、アメリカは人民による直接参政の機会が多く、市町村では政党感覚で行政は行なわれていない。しかし、市町村では代議員の殆どは共和党員（Republican - 保守系）か民主党員（Democrat - 革新系）として選出されるが、中立を固持して独立党（Independence - 政党ではないが、無所属の立場）として選出される政治家もいる。日本の様に議会等に於ける質疑応答があらかじめ示談で準備されている様な事はなく、したがって長たるものは、常に多くの事項に精通でなくてはならない。